

電話が繋がらない、外来混雑、ベッドいっぱい 総合医療センター(キセラ)オープン、混乱のスタート

電話が繋がらない

158床減少し患者集中

9月1日オープンの市立総合医療センター。「電話がかかりにくい」など何件もの苦情。すぐに市側に報告し是正を求めると伝えました。

松木茂弘副市長から「ナビダイヤルへの苦情は病院側も聞いている。是正できるように検討する」と回答があり経過待ちとなっています。

危篤で駆け付けたが...

「連れ合いが危篤、医師からすぐに来てほしいと連絡があり駆け付けたが、職員が聞いていないとかコロナ禍だからと言つてすぐに会えなかった。手続きも手間がかかり職員間の連携はどうなっているのか」

外来の混み方異常

「外来の混み方が異常。予約で行っても待たされる。待つ場所やどこに何があるのかわかりづらい。職員に聞いてもわかっていない。」

「何回保険証の提示がいるのか」

「入院のベッドが一杯で特別室に入れられた」

「前の病院の職員は丁寧だったのに」など不満や苦情が相次いでいます。

新しい建物や職員体制による混乱を理解しない訳ではありませんが、公立病院という役割・責務を果たす、住民の安全・安心最優先であることは当然です。



総合医療センター開始後の職員体制の詳細の報告はまだ明らかになっていません。(いつもの職員数の表は2枚目に記載しています)

「ベッドがほぼ満床」「外来の混み方が異常」との声が上がっています。統廃合とベッド削減を行うことで、警鐘をならしてきたことです。

250床の川西病院と313床の協立第1病院の統廃合で新病院(405床)を新設。市内の急性期ベッドが158床も減少。その分、市内の患者が集中している形です。

個室化になったものの、7割は無料ですが、3割は有料個室になっています。

病院側の都合で有料個室にし、か入ることができない場合は、「無料にする」と市が答弁しています。患者さんの状態を含め、病院側の説明を十分求めてください。公立病院の使命を果たすことが大前提です。

コロナ第8波が案じられる中、一般の怪我や病気の患者受け入れなどへの影響や医療逼迫を危惧しています。

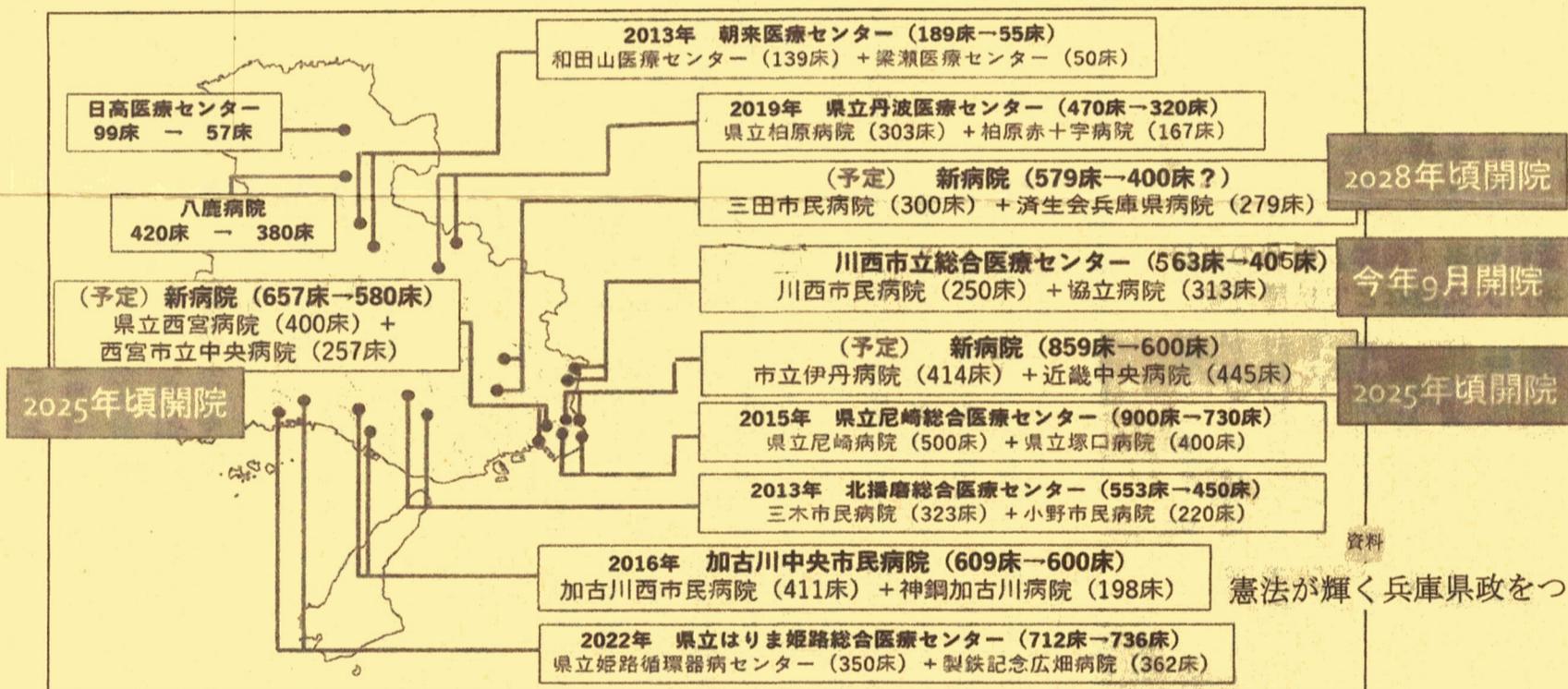
国・県のベッド削減計画

現政権・県政の計画通り、近隣市でも急性期ベッド削減が強化されています。

住民の医療を奪われることがないように、様々な自然災害への備えとしても施設や医師・看護師など職員の確保が必要です。

市の責任として医療を確保させましょう。(近隣市のベッド削減予定は下の通り)

兵庫県の病院統廃合計画



資料

憲法が輝く兵庫県政をつくる会

「住民が主人公」の立場を貫いて

「みんな、見てるよ」の声に元気を頂き、さらに信頼されるよう取組みます!



10月9日告示、16日投票の川西市議会議員選挙で私(黒田)は、3269票(第2位)で当選、18日に当選証書を頂戴して6期目がスタートします。

皆さんのおかげで日本共産党は、北野紀子・吉岡健次・黒田みちの3人の議員団として28日から新たな体制で公約実現に向けて全力で取り組みます。

選挙結果などは一面の表の通りですが、私(黒田)は、公約実現に向けた活動はもとより、この間、精力的に取り組んでいる「まちかどカフェ・トーク」「情報かわら版」、おなじみの「たんぽぽだより」配布など、情報をお伝えすること皆さんからご意見を聴き、またお返しをする「住民が主人公」のまちづくりをさらに拡充・工夫しながら取り組みます。

これからも、元気で笑顔で自分らしく活動できるようにがんばります。引き続きのご協力・ご指導よろしくお願ひします。



選挙本番、候補者カーだけでなく、自転車隊で政策を訴えきました。